

(仮称) 第二次小平市教育振興基本計画 素案〈概要〉

■計画策定の背景と目的

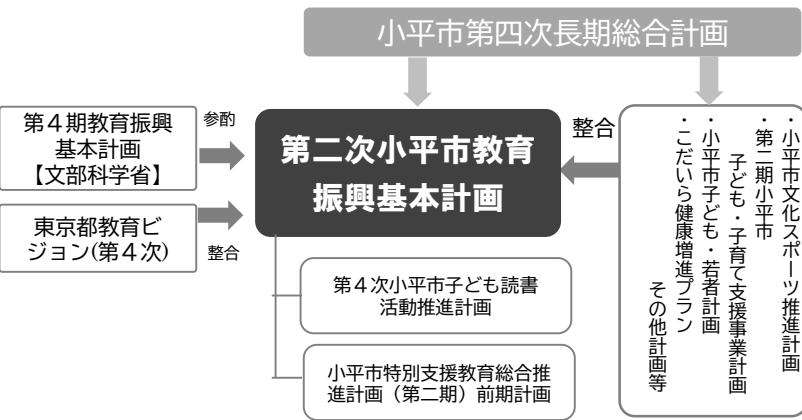
平成25年2月に「小平市教育振興基本計画」（以下、「現行計画」という）を策定し、教育の振興に取り組んできた。

Society5.0時代や人生100年時代の到来、SDGsをはじめとした社会の持続的な成長・発展を目標とする国際的な取組みも広がり、持続可能で強靱な、誰一人取り残さない社会の実現に向けた取り組みが推進されるなど、社会状況は大きく変化している。

こうした中、教育を取り巻く環境も大きく変化し、新たな教育課題への対応が求められている。これに的確に対応し、教育の振興を図るため、新しい時代を見据えた、次代の教育を実現するための教育ビジョンとして、新たな小平市教育振興基本計画を策定する。

■計画の位置づけ

教育基本法第17条第2項の教育振興基本計画に位置付けられるとともに、「小平市第四次長期総合計画」における「基本目標Ⅰ人づくり」を実現するための教育分野における個別計画に位置付けられる。



■計画の範囲

学校教育分野・社会教育分野を包含する市の教育分野の総合的な計画

■計画期間

令和5年度から令和14年度までの10年間

■小平市の現状と課題※小平市の教育に関するアンケート調査、現行計画の振り返りから整理

(1)確かな学力の向上

- ・基礎・基本の確かな定着と活用力の向上
- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実
- ・組織的かつ計画的な教育活動の質の向上 ・学校図書館の機能向上

(2)健やかな体の育成

- ・運動習慣の定着と意欲の向上 ・基本的生活習慣の確立

(3)豊かな心の育成

- ・子どもたちの思いやりや共生する心を育成
- ・自己肯定感や自尊感情の向上 ・いじめ防止の対応に向けた取組
- ・不登校児童・生徒への対応 ・共に学ぶ環境や仕組みの充実

(4)自立心の養成

- ・社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成
- ・子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組む力の育成
- ・ICTを活用した子どもの可能性を拓く資質・能力の育成

(5)共生と地域・社会貢献意識の醸成

- ・情報モラル教育、人権教育の充実 ・地域と連携した郷土愛を育む取組の充実

(6)教員の資質向上

- ・教職員のキャリアステージに応じた体系的かつ効果的な研修や専門性の向上を図る研修等の一層の充実
- ・学校・教員への信頼向上 ・学校内の日常的教育活動でのOJTによる資質・能力の向上
- ・子どもと向き合う環境づくり ・教職員のメンタルヘルスの保持増進

(7)学校の経営力向上

- ・地域とともにある学校づくりを図る研修等の一層の充実
- ・地域と学校の連携 ・協働に対する学校の理解促進
- ・学校内の日常的教育活動でのOJTによる資質・能力の向上
- ・外部人材の確保及び配置の拡充 ・コンプライアンス意識が醸成された職場環境の構築

(8)家庭教育の支援

- ・家庭の教育力の向上

(9)地域教育の充実

- ・連携・協働体制の維持・充実 ・新たな地域人材の発掘及び育成

(10)教育環境の整備

- ・個別最適な学びと協働的な学びを実現する環境整備
- ・経済的困難のある子どもへの教育支援

(11)生涯教育の推進

- ・学習機会の充実・学習活動の成果の地域への還元及び地域の人材育成
- ・地域における教育内容の充実

(12)図書館の充実

- ・情報拠点としての機能強化

(13)生涯スポーツの推進

- ・運動習慣の定着 ・ユニバーサルスポーツの推進

(14)郷土愛の醸成

- ・市の伝統・文化の認知度と意識の向上 ・市の伝統・文化の保存・活用

(15)多様な主体との連携

- ・学校施設・社会教育施設の整備方針等の検討 ・社会教育施設の機能・役割のあり方の検討

■教育の目標

〈予測困難な新たな時代に求められる力〉
他者への共感、寛容性、多様性を尊重する態度、
人間関係を築く力、異なる考えの人々と議論を
重ねながら問題を解決していく力 など
『自立』『貢献』『共生』

〈現行計画における目指す人間像〉
『社会的に自立し、地域・社会に
貢献しながら、他者と貢献する人』

新たな計画でも目指す人間像として継承

〔目指す人間像〕

〔計画の基本理念〕

〔教育の目標〕

〔基本的施策〕

学び・体験を通じて お互いに認め合い
励まし合い 共に生きるまち小平

目標 1

自分を認め他者を認め一人ひとりの子どもの良さや可能性を最大限に引き出します【自立】

1 確かな学力の向上

2 健やかな体の育成

3 豊かな心の育成

4 自立心の養成

5 一人ひとりを大切にし共に学ぶ教育の充実

6 教員の資質向上

目標 2

学校・家庭・地域が
つながり持続可能な
教育環境をつくりま
す【共生】

7 学校の経営力向上

8 家庭教育への支援

9 地域総がかりでの教育の推進

10 教育環境の整備

目標 3
一生涯にわたって学
び受け継がれる小平
の教育の好循環をつ
くりまします【貢献】

11 多様な学びをつなぐ生涯学習の推進

12 生涯学習を通じた地域づくりの推進

■目標指標と目標値

教育の目標ごとに、中間年と最終年に達成を目指す目標値を設定

目標	目標指標	目標値 R13	対象	H28	現状値 R3
1	良いところや得意なことがあると思う割合 （“そう思う”+“まあそう思う”の割合を増やす）	10% 以上 増やす	小3	88.3%	90.1%
			小6	84.2%	82.8%
			中1	83.4%	76.5%
			中3	74.6%	78.7%
	自分を大切な存在だと思える割合 （“そう思う”+“まあそう思う”の割合を増やす）	10% 以上 増やす	小3	87.0%	85.6%
			小6	71.3%	70.0%
			中1	70.5%	68.1%
			中3	62.5%	63.1%
2	地域の学校に対して協力したい割合 （“協力したことはない”の割合を減らす）	10% 以上 減らす	市民	—	37.1%
			小3	—	7.3%
			小6	—	13.9%
			中1	—	13.1%
	地域とのつながりをもつ割合 （“交流したいが、交流していない”+“交流するつもりはない”の割合を減らす）	10% 以上 減らす	中3	—	17.7%
			保護者	—	9.8%
			5歳児保護者	—	15.7%
			市民	—	27.7%
3	生涯学習（学習活動）で得た知識・技能・経験を地域へ還元している割合 （「ボランティアや地域の活動・他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導」の割合を増やす）	10% 以上 増やす	市民	24.6%	18.9%

■計画の推進体制

学校・家庭・地域・教育委員会が一体となって、本計画を推進。
関係機関、各種団体、ボランティア・NPOなど、各分野における
多様な主体との協働により、地域全体で教育に取り組む環境づくりを進める。

■計画の進行管理

・3つの教育の目標に、達成水準を定量的に示した「目標指標」を設定
・12の基本的施策に、取組実績がもたらす状況の変化や成果等を示す
「成果指標」を設定
10年後の目標、5年後の中間目標に基づくPDCAサイクルにより、毎年
点検・評価を行いつつ、施策の実行に努める。